

日本銀行決済機構局長の神山です。第2回の開催となるクロスボーダー送金分科会にご参加頂き、誠にありがとうございます。

クロスボーダー送金の改善は、2020年のG20のプライオリティの一つとされていますが、これまでのクロスボーダー送金の改善の議論について感じたことを3点述べさせていただきます。

第一に、クロスボーダー送金の改善に向けた海外当局や国際機関のモメンタムは非常に強いということです。昨年夏のリブラ構想が、各国当局の意識を大きく変化させたように思います。リブラ構想はまだローンチされていませんが、仮にローンチされ、利用が大きく広がった場合には、金融システムに大きな影響を及ぼすことになります。このような危機感が広く共有されていることが、グローバルなモメンタムにつながっているように感じられます。

第二に、改善を進めていく場合、各国固有の事情に即して取り組みを進めていくことが何より大切ということです。各国が抱える課題は異なっており、取り組みがone size fits allとなることを避ける必要があります。

第三に、クロスボーダー送金の改善の成果を挙げるためには、各国が自らの課題を正しく理解することが前提ということです。日本固有の事情が何か、効率的に改善する方法は何か、そもそもそういう方法があるかを含め、関係者の意識共有が非常に大事だと考えています。私どもとしても、引き続き日本の関係者と緊密に意見交換させて頂ければ幸いです。

本日の分科会では、3つのセッションを予定しておりますので、これまでの分科会での議論も踏まえ、建設的なご意見を頂戴できれば幸いです。